

## ----- CONTENTS -----

- 平成20年度定時総会開催-----①  
研修会は「新光電子のJIS計量器について」
- 研修会の報告-----②

## 芝弥生会館で都計コンの平成20年度定時総会開催 研修会は「新光電子のJIS計量器について」



コンサルタント  
能力の向上を  
訴える岩下会長

都計コンは2月13日(水)平成20年度定時総会を芝弥生会館で開催した。総会は以下のスケジュールで進行され、出席者は最終的に46名となった。

○東京都計量器コンサルタント協会研修会 14:00～15:30

「新光電子のJIS計量器について」 JISマーク付きはかりと計量管理(詳細裏面)

新光電子(株)東京営業部営業課長兼名古屋営業所長 小竹 富雄 氏

○平成20年度定時総会 15:45～16:45

- 議事1. 平成19年度事業報告承認の件
2. 平成19年度収支決算承認の件
3. 平成20年度事業計画(案)承認の件
4. 平成20年度収支予算(案)承認の件

○パーティー 17:00～19:00(芝弥生会館11階「ふじ」)

研修会終了後、植村副会長より定時総会開会宣言の後、岩下会長より現下の厳しい社会状況に対応しコンサルタント能力の向上を図り社会の安全、安心に資する活動の強化を訴え、会員のいっそうの尽力を要請する挨拶があった。

引き続き議事に入り、19年度事業報告につき近藤副会長より議案書に沿って詳細な報告が行われた。

続いて森川事務局長より、19年度決算報告が行われ、計画予算より若干の黒字で計画通りの事業が実施できた旨報告された。

なおこの時点で、バランスシート上の未収会費の内容が説明され、今年度、会費滞納会員等の整理を順次行い、会計上より健全な形へ移行するよう会長より事務局へ要請があった。

竹内監事より、会計監査の報告があり、事務、会計とも適正と報告され、19年度事業報告、収支決算報告ともに承認された。

20年度事業計画については佐藤理事より提案説明が行われ、収支予算案については事務局より提案説明がなされた。

収支予算については、現会員総数に新会費(19年値上げ決議、年額12,000円)を適用した場合の収入予算となっていること、これによる増収分により、未収会費問題を実態的に解決する手続きに入ることが説明された。議長より20年度計画、予算につき承認が求められ、若干の質疑の後異議なく承認された。

総会終了後は恒例の懇親パーティーがもたれ、吉川理事の司会の下、和やかに会員相互の交流が行われた。また(社)日本計量振興協会河住専務理事より祝辞があり、その中で、計コン制度の拡充、進化を図るため進められてきた調査研究委員会の成果報告があり、その成果に沿って新年度より統一的な計コン研修を実施していく計画が明らかにされた。

中盤からはカラオケも盛り上がり、大いに懇親の実があり、楽しいパーティーとなった。



パーティーでは楽しいデュエットも

# 研修会の報告

定時総会に先立って行われた研修は新光電子(株)の協力で、同社が昨年第1号で取得したばかりのJISマークについてその意義と今後の計量管理のあり方について講演をいただいた。

講師は同社東京営業部課長 小竹富雄氏、演題は「新光電子のJIS計量器について」 JISマーク付きはかりと計量管理 であった。

同社は平成19年6月、一般計量器JISの認証を受けJISマーク付き電子式はかりの第1号のサプライヤーとなった。

認証番号 JQ0307010 JIS B 7611-1

認証製品 電子式はかり(1級、2級)

である。

講演内容は豊富かつ丁寧な内容で同社の企業戦略も含めJISマーク製品の意義、今後の計量管理の方向性の模索など非常に示唆に富んだ内容であった。

以下に、講演で使われたパワーポイントの内容の一部を紹介しておく。



熱心に講義する小竹氏

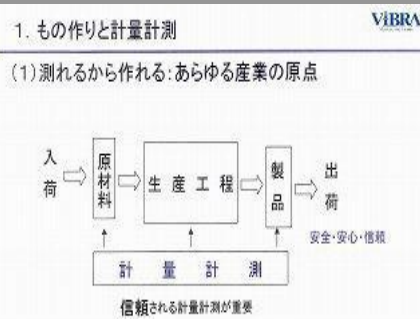
VIBRA

## JISマーク付きはかりと計量管理 一次世代の計量管理とは一

2008年2月13日(水)  
東京都計量器コンサルタント協会

新光電子株式会社  
担当 小竹 富雄

目次	
1. もの作りと計量計測	
2. 新JISマーク制度/はかり技術基準	
3. ISO10012の活用/計量計測プロセスの管理	
4. JCSSの活用	
5. まとめ/次世代の計量管理とは	
6. 事例紹介	
7. 新光電子のJIS取得紹介	
8. 新光電子のJCSS取得紹介	
9. VIBRAとは!	



### 1. もの作りと計量計測

(3)信頼される計量計測とは

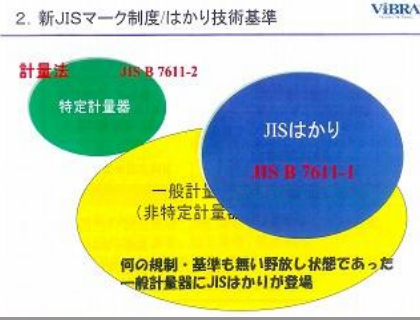
- 技術基準に則した計量計測器
  - ⇒ 新JISマークの活用(はかりの技術基準)
- 計量計測器の管理と測定作業の標準化
  - ⇒ ISO10012の活用(計量プロセスの管理)
  - ⇒ JCSSの活用(トレーサビリティ制度の活用)
- 標準(分譲など)の適正管理
  - ⇒ JCSSの活用(トレーサビリティ制度の活用)

参考: S25. 9. 25産産省通達  
「合理化と標準化は必然の要求であり、企業の合理化には計量が不可欠であり...、計量管理には、計量器の管理、計量方法の管理、計量機種の管理」

### 2. 新JISマーク制度/はかり技術基準

(1)はかりの技術基準の現状

特定計量器	特定計量器検定検査規則(JIS B 7611-2)
	技術基準、検定、使用中検査
一般の計量器 (非特定計量器)	何の規制・基準も無く言えば <b>野放し</b> ↓ 非自動はかりの <b>工業標準(JIS)</b> ができた 「JIS B 7611-1:2005 非自動はかり一性能要件及び試験方法— 第1部—一般計量器」 ⇒ <b>安全・安心・信頼の前進</b>



### 2. 新JISマーク制度/はかり技術基準

(2)JIS法改正の経緯と改正法令の概要

平成16年6月9日に工業標準化法が改正され、平成17年10月1日から新JISマーク表示制度へ

旧JISマーク表示制度と新JISマーク表示制度の主な違い

旧JISマーク	新JISマーク
国による <b>工場認定制度</b> (12000事業所が認定)	製品ごとの <b>認証制度</b> (製品認証制度)
工場の認定は、国又は国が指定する者(指定定期機関)が実施	製品認証は国の登録を受けた第三者認証機関(登録認証機関)が実施
対象製品は国が指定する鉱工業品に指定(指定製品類)(約600品目)	対象製品は、JIS製品規格が整備されているすべての製品

### 2. 新JISマーク制度/はかり技術基準

(3)JISに関する補足

- \* JIS=Japanese Industrial Standard
- \* 対象製品:  
対象となり得ると考えられる規格は、性能項目の規定、試験方法の規定、表示項目の規定及び引用規格の規定のすべてが、適切であると判断されるもの(リストアップされている)
- \* 認証を取得できる者:  
国内の製造業者、加工業者、輸入業者、販売業者  
外国の製造業者、加工業者、輸出業者
- \* 認証維持審査は3年に1回以上

### 2. 新JISマーク制度/はかり技術基準

(5) JISマーク表示制度の利点

生産者:  
具体的に規定された工業標準によって、その製品の品質を保証し信頼される製品の供給をする。  
-ISO9001に基づき品質管理体制で製造  
-JIS B 7611-1に規定された要件をクリア

使用者/購買者:  
JISマーク表示によって、購入者が当該製品の品質に関する情報が客観的に得られる。  
その結果、使用者や消費者が迷うことなく安心して、必要な品質性能を有する安全な製品を入手できる。

### 2. 新JISマーク制度/はかり技術基準

(6)技術要件における一般計量器と特定計量器の主な違い

	JIS B 7611-1 第1部—一般計量器	JIS B 7611-2 第2部—特定計量器
はかりの精度(目量)	1mg以上	10mg以上
計量の安全	封印なし(スパン調整できる)	1級を除き封印が必要(スパン調整できない)
重力加速度の表示	なし	あり

### 2. 新JISマーク表示制度/はかり技術基準

(6) JISマーク表示付きはかりの試験/品質保証試験

毎個試験の他に下記試験を定期的に実施して品質確認をしています

- 性能に係わる試験
  1. 時間による表示変化 クリップ試験
  2. 常態常備試験
  3. 平衡の安定に対する試験
- 影響因子に係わる試験
  1. 傾斜試験:無負荷時と荷重を加えた場合
  2. 予熱時間の試験
  3. 静的溫度試験
  4. 電圧及び周波数変動
- 耐久試験
  1. 耐久試験(1級を除く)
- 電子式はかりだけの追加試験
  1. 高過渡
  2. 瞬時停電
  3. パースト
  4. 静電気試験
  5. 放射電磁場に対する免疫
  6. スパン安定性試験

- ### 2. 新JISマーク制度/はかり技術基準
- (7)新光電子の取り組みと現状
- ①平成18年10月 JOAIに申請  
非自動はかり(JIS B 7611-1)申請第1号
  - ②平成18年12月 審査開始(品質管理体制+製品試験)
  - ③平成19年4月 品質管理体制の規格基準への適合審査に合格
  - ④平成19年5月 製品試験に合格(JIS B 7611-1の適合審査)
  - ⑤平成19年6月18日 一般計量器JIS認証取得第1号  
JQ0307010 JIS B 7611-1  
認証製品:電子式はかり(1級、2級)
  - ⑥平成19年10月 JIS製品発売
- \*新光電子の認証番号の展開:  
JQ0307010 JQ-JQA 03関東経済産業局  
072007年 010所在地毎の通し番号

### 3. ISO10012の活用/計量計測プロセスの管理

(1)マネジメントシステムの導入

JISで計量器そのものの性能保証はできたが、計量計測器の管理はどうか

↓

「ISO 10012 計測マネジメントシステム  
測定プロセスおよび測定機器の要求事項」  
による計測管理のマネジメントシステムの確立